

知床国立公園利用状況調査の整理について

1 課題

- (1) 「入込数を推定すること」が目的化しており、利用方法や状況の変化に応じた見直しが必要
- (2) 推定手法の正確性や妥当性に課題が含まれる項目がある。
- (3) データの正確性や妥当性に関する情報が整理、記載されていない項目がある。
- (4) 項目が細分化、拡散傾向にあり、俯瞰的な利用データと動態分析・集計的な詳細データが混在している。一方で新たな利用やアクティビティについては補足されていない場合もあり、項目再整理が必要。

2 基本的な考え方

- (1) 調査手法は実測データ、一次データを優先する。
- (2) 項目は単一指標を優先する。組合せによる指標は補足的に用いる。
- (3) 経年的な変化の把握を優先し、制度や利用形態により変化しづらい指標を用いる。
- (4) 項目の総量は増やさず、改廃と追加を同時に検討する。
- (5) 掲載、表記はわかりやすく、統一的に整理する。調査の手法や推定の方法、利用方法の経緯などが把握できる体裁にする。

3 取扱い方針

- (1) 項目（追加および改廃）
 - 調査項目は、「全体」「場」「動態（アクティビティ）」「施設」の4項目で再整理する。
 - 1項目、1指標を原則とし、実測データに基づく単変量を月別に整理する。
 - 「全体」の項目は外部の統計データをそのまま転記する。
 - 新たな利用動態形態にかかわる項目の新規追加を検討する。
 - 複数データの組合せによる項目や、推定のみ項目、同じデータを元に繰り返し集計する項目については、簡素化を目的とした改廃を行なう。
- (2) 調査手法
 - 外部環境により大きく変化したり、入手不可となるデータは避ける。
 - 同一期間、同一手法で継続的に取得可能な調査手法を用いる。
- (3) 補正および推定
 - 調査手法の特性や取得実績に応じた補正（一次補正）を行う。
 - 組合せや推定は極力避け、これらによる2次データは基本的に参考データとして扱う。推定の精度や確度を高めるため、定期的に実地調査を行う。
 - 施設や事業者からの聞き取りによるデータは原則そのまま用いる。

(4) 体裁、定義、掲載

- 1 指標につき、図表も各 1 を原則として編纂する。補足的に用いるものはこの限りでない。
- 調査の手法、データの取得先、用語の定義、利用制度等の変遷、推定の精度等について、全ての項目について同様の様式で注釈を作成する。
- 掲載期間は 10 年間を目安とする。図表のとりまとめの体裁は可能な限り共通化する。

4 具体的な整理、見直し（案）

別紙

調査項目一覧	新カテゴリ	取扱い(案)	変更案	課題	表 No.	図 No.	モニ No.21	白書	データ 精度評価	評価根拠
1 斜里町及び羅臼町の観光入込者数 「エリア」の入り込み指標の整理										
1-1 斜里町観光入込数	場	継続			2	2	○	○		
1-2 羅臼町観光入込数	場	継続			3	3	○	○		
2 主要利用拠点における利用者数 「場」の入り込み指標の整理										
2-1 知床五湖地域										
2-1-1 五湖園地全体利用者数(駐車場利用者数+シャトルバス五湖利用者数)	場	変更 継続	(主)月別駐車台数【台】 ・車種別駐車台数をそのまま記載 (副)入り込み推定数【人】 ・入り込み数の推定は参考情報として付記 ・図5「シャトルバス五湖利用者」は廃止	・車種別乗車人数の推定係数は30年以上変わっていない。再調査か、一般データあればそれを参照するなどの対応。 ・シャトルバスはここでは触れず、「動態」カテゴリで一本化	4	4, 5	○	○	△	推計値①(推計値に補正係数を乗算)と推計値②(推計値に補正係数を乗算)を合算した推計値を使用
2-1-2 高架木道・地上遊歩道利用者数 高架木道・利用調整地区利用者数	場	変更 継続	①高架木道はカウンタデータからの推定人数を継続 ②地上歩道の入り込み数は立ち入り申請人数を使用 補足的に大ループ、小ループの割合を使用 ヒゲマ期、補生の利用制度を反映	①調査手法の問題により、誤差は大きい。カウンタ補足率の調査は定期的が必要。カウンタ入れ替えも検討。 ②五湖FHの申請データは最も精度が高いため、優先して使用。 大ループ、小ループのカウンタデータは現状使われていない。 ヒゲマ期、補生期の期間分類の観点が入っていない	5	6	○	○	○ ◎	高架木道利用者数：推計値を使用 地上遊歩道利用者数：2種の実数値を合算した実数値を使用
2-1-3 冬季利用者数 知床五湖冬期ツアー参加者数	動態	変更 継続		冬季の入り込み数ではなく、特定のツアーの利用者数のため、アクティビティのカテゴリに移動。	6	7	○	○	◎	実数値を使用
2-2 カムイワッカ地域										
2-2-1 シャトルバス利用者数(カムイワッカ以外の利用を含む) シャトルバス乗客数	動態	変更 継続	・カムイワッカから切り離し、交通の乗客数として再整理。	・バスは、乗降、往復などの複雑な動態があるため、場の利用者数のカテゴリに入れるべきでない。 ・採用するデータについて定義必要。	7	8	○		◎	実数値を使用
2-2-2 カムイワッカ来訪者数	場	変更 継続	(主)湯の滝入浴者数【人】 ・現在使用されていない、湯の滝カウンタの実測データを使用 (副)カムイワッカ来訪者数【人】 ・地区全体の来訪数は粗い推定になるため、補足的に計算	・現在は、実測データを全く使用しない、粗い推計のため、実測データ中心に改める。 ・地区の来訪者数は補足データとし、カウンタデータ、シャトルバス、五湖駐車台数等から推計する。交通データについては、選択率調査等を定期的に実施する必要あり。	8	9	○	○	× △ △	実数値①と推計値②(実数値に2種の補正係数を乗算)を合算した推計値を使用 実数値①と推計値③(推計値に補正係数を乗算)を合算した推計値を使用 実数値①と推計値④(推計値を補正係数で除算)を合算した推計値を使用
2-3 ホロベツ地区										
フレベの滝利用者数(フレベの滝カウンター調査)	場	継続		・カウンタの補足率については定期的な調査が必要。	9	10	○	○	○	推計値を使用
森づくりの道利用者数										
	場	追加?	・運動地の新規コースについてとりまとめ必要か。 ・財団による独自調査データあり							
2-4 知床連山地域										
連山登山道利用者数(岩尾別、硫黄山、湯の沢カウンター調査) 連山登山道利用者数(岩尾別、硫黄山、羅臼温泉カウンター調査)	場	継続	・「湯ノ沢」→「羅臼温泉」に表記修正		10	11	○	○	△	3種の推計値を合算した推計値を使用
2-5 羅臼湖地域										
2-5-1 羅臼湖登山道利用者数(羅臼湖カウンター調査)	場	継続			11	12	○	○	○	推計値を使用
2-5-2 熊越えの滝利用者数(熊越えの滝カウンター調査)	場	継続			12	13	○	○	○	推計値を使用
2-6 知床岬、知床沼、知床岳地域										
陸地による知床岬、知床沼方面利用者数(ウナキベツ・観音岩カウンター調査)	場	継続		・利用者数僅少で、他の調査等も行われていることから、入林簿等も補足的に活用してもよいかもしれません。 ・現状では、管理者や関係者のカウント割合もかなり高いのでは？	13	14	○	○	○ ○ △	知床岬、知床沼方面利用者数：推計値を使用 知床沼方面利用者数：推計値を使用 知床岬方面利用者数：推計値①から推計値②を減算した推計値を使用
2-7 入山カウンター										
2-7-1 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入林簿等からの入山数とそのうちの縦走利用者数	場	変更・継続	・2-4の登山口別の入り込み数を別のデータから見ているだけなので、2-4に組み込み、補足データの位置づけに格下げ。	・硫黄山については、入林簿の設置なし。特例使用申請については、様式が異なるため、注意必要。	14	15, 16	○		○	実数値を使用
2-7-2 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入林簿等からの月別縦走利用者数	動態	変更・継続	「縦走」利用に着目するのであれば、入り込み数ではなく、「動態」のカテゴリに再編	・「縦走」の定義不明。申告ではなく、行動データから定義して整理する。 ・図18、図19は削除。	15	17~19			○	実数値を使用
2-7-3 縦走利用者の各登山口の入林簿からの入下山者数		削除			16	-			○	実数値を使用
2-7-4 入林簿からの縦走利用者滞在日数		削除			17	20			○	実数値を使用
2-7-5 各キャンプ地の入山簿からの縦走利用宿泊者数		削除			18	21			○	実数値を使用
2-7-6 縦走利用者数の推移について		削除	分析的内容で細かすぎるため、モニタリング項目としては削除。必要性やテーマに応じて、こうした分析や集計を適宜行うことは可能。		19~23	22~24			○	実数値を使用
2-7-7 カウンターデータとの関係		削除			24	-			-	実数値を推計値で除算した推計値を使用
2-7-8 滞在日数の変化について		削除			25	-			○	実数値を使用
2-7-9 野営地の利用状況		削除			26	-			○	実数値を使用

調査項目一覧	新カテゴリ	取扱い(案)	変更案	課題	表 No.	図 No.	モニ No.21	白書	データ 精度評価	評価根拠
3 観光船、シーカヤックツアー、釣り船の利用者数 アクティビティや動態の指標の整理										
3-1 観光船利用者数										
3-1-1 ウトロ地区観光船利用者数	動態	継続	運航本数についても聞き取り	・小型船協議会と連携し推定データは今後用いないことを前提に整理	27	25	○	○	○	実数値を使用 ※全事業者よりデータが得られなかった場合、実数値に補正係数を乗じた推計値を使用
3-1-2 羅臼地区観光船利用者数	動態	継続	運航本数についても聞き取り	・小型船協議会と連携し推定データは今後用いないことを前提に整理	28	26	○	○	○	実数値を使用 ※全事業者よりデータが得られなかった場合、実数値に補正係数を乗じた推計値を使用
羅臼ヒグマクルーズ利用者数	動態	追加		・現状情報収集体制が整っていない						
3-2 シーカヤックツアー利用者数 シーカヤックツアー参加者数	動態	継続	タイトル修正	・あくまでツアー参加者数であることに留意 ・この項目のみ、集計が「人日」単位になっているため、整理必要。	29	27	○	○	△	実数値を使用 ※全事業者よりデータが得られなかった場合、実数値に補正係数を乗じた推計値を使用
3-3 サケ・マス釣り利用者数										
3-3-1 ウトロ地区沖秋さけライセンス遊漁者人数	動態	変更・継続	・指標の位置づけ、目的について協議必要。	・ウトロ地域の「釣り」全体の利用動向の把握が目的であれば、代表性に欠ける。	30	28	○		◎	実数値を使用
3-3-2 羅臼地区サケ・マス釣り利用者数	動態	継続	・指標の位置づけ、目的について協議必要。		31	29	○	○	◎	実数値を使用
3-3-3 羅臼地区サケ・マス釣り利用者数 グラフ		削除	細かすぎるため、グラフは削除。		-	30~41				
流氷ウォーク、インバウンド、シャトルバス、路線バスなど	動態	追加	新たな利用、注目する利用、交通などの切り口で必要に応じて追加。データがとれるかは個別調整。							
4 主要施設の利用者数 「点」としての施設の利用者数の整理										
4-1 知床自然センター利用者数	施設	継続			32	42	○	○	○	推計値を使用
4-2 知床自然センター MEGAスクリーンKINETOKO利用者数	施設	変更・継続	図44は削除		33	43, 44			◎	実数値を使用
4-3 羅臼ビジターセンター利用者数	施設	継続			34	45	○	○	○	推計値を使用
4-4 知床世界遺産センター利用者数	施設	継続			35	46	○	○	○	推計値を使用
4-5 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数	施設	継続			36	47	○	○	○	推計値を使用
4-6 道の駅利用者数(道の駅知床・らうす、道の駅・しゃり、道の駅ウトロ・シリエトク)	施設	継続			37	48		○	○	推計値を使用
4-7 森林センター・ボランティア活動施設利用者数	施設	継続			38, 39	49, 50		○	◎	実数値を使用
4-8 知床博物館利用者数	施設	継続			40	51		○	◎	実数値を使用